



平成 28 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社キムラタン
 代表者名 代表取締役 浅川 岳彦
 (コード番号 8107 東証第 1 部)
 問合せ先 常務取締役 木村 裕輔
 (電話 078-332-8288)

平成 29 年 3 月期 第 2 四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異
 及び通期連結業績予想の修正ならびに営業外費用 (為替差損) の計上に関するお知らせ

平成 28 年 5 月 12 日に公表いたしました、平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日) の業績予想値と実績値との差異につきまして、下記のとおりお知らせいたします。また、最近の業績動向等を踏まえ、平成 29 年 3 月期通期 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日) の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

加えて、当第 2 四半期連結累計期間において、営業外費用 (為替差損) を計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想値と実績値との差異 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 2,000	百万円 △130	百万円 △135	百万円 △140	円 銭 △0.16
今回実績値 (B)	1,756	△223	△243	△247	△0.28
増減額 (B - A)	△243	△93	△108	△107	—
増減率 (%)	△12.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	1,856	△154	△160	△179	△0.23

2. 平成 29 年 3 月期通期連結業績予想の修正 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 5,000	百万円 25	百万円 15	百万円 10	円 銭 0.01
今回修正予想 (B)	4,300	△200	△230	△235	△0.26
増減額 (B - A)	△700	△225	△245	△245	—
増減率 (%)	△14.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	4,237	△225	△267	△289	△0.35

2. 第2四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異の理由

主力の Baby Plaza においては、不順な天候により秋物の動向に遅れが生じたこと等により既存店売上高は前年同期比 7.4%減と低調に推移しました。また、BOBSON ショップについては、既存店売上高は前年同期比 3.2%増となるものの、Baby Plaza と同様に秋物の立ち上がり時期の動きが鈍く、8月～9月の販売が苦戦したことにより、計画値には至りませんでした。以上が主要因となり、第2四半期累計期間の売上高は前回予想を下回る結果となりました。

売上高が予想値を下回ったことにより、営業利益は前回予想を下回る結果となり、それに伴って経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は各々予想を下回りました。

3. 通期業績予想の修正の理由

下半期に入り、気温の低下とともに秋冬物の動向は活発化しており、当社 Baby Plaza、BOBSON ショップにおいても政策効果に天候要因が追い風となって、足元の販売は好調に推移しております。

しかしながら、国内外の情勢が依然として不安定な状況下、消費市場の動向は予断を許さないものと予想されます。また、海外事業につきましてはパートナー企業による総合ショップの開設や新たな販路開拓も進行しておりますが、本格的な販売開始には当初の想定よりも時間を要するものと見込んでおります。

通期の連結業績予想については、下期の売上高の見通しを、上期の実績、最近の市況及び足元の販売状況等を勘案のうえ修正し、それに伴い損益予想も修正いたしました。

下半期では利益確保を見込んでいるものの、主に店頭売上を修正したことと、海外事業の本格的な展開時期を見直したことにより、上期の赤字を解消するには至らないことから、通期業績を赤字予想に修正いたしました。

4. 営業外費用（為替差損）の内容

為替相場の変動により、平成 29 年第 2 四半期連結累計期間において、為替差損 17 百万円を計上いたしました。これは主に、外貨建仕入について計上と決済の為替レートに差が生じたことと、外貨建預金を円転した際に生じたものであります。

5. 業績に与える影響

上記の営業外費用（為替差損）は当第 2 四半期連結累計期間における一時的なものであり、下期以降の発生は見込まれません。

※ 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上